

旧外国人居留地

●「東町(ひがしまち)・伊藤町(いとうまち)・江戸町(えどまち)・京町(きょうまち)・浪花町(なにわまち)・播磨町(はりまちょう)・明石町(あかしまち)・西町(にしまち)・前町(まえまち)・海岸通(かいがんどおり)」の由来

市役所・東遊園地の西の筋から鯉川筋まで、三宮神社の南の筋(旧西国街道)より南側で囲まれた区域は、1867(慶応3)年から1899(明治32)年までの間、日本の統治支配が及ばない、外国人自治の行なわれていた外国人居留地であった。居留地は1858(安政5)年の日米修好通商条約の規定によって設置されることになり、神戸の居留地は神戸開港の半年前から幕府によって設営が開始された。幕府滅亡後は新政府が引き続きその設営を行ない、完工するに至ったのである。居留地は126に区画され、初代兵庫県知事 伊藤博文のもとイギリス人技師ハートが諸施設の設計にあたった。

今の東町、伊藤町、江戸町、京町、浪花町、播磨町、明石町、西町、前町、海岸通がかつての居留地にあたり、これらの町名は明治の初年に命名された。「伊藤」は県知事伊藤博文の名を、他の「江戸」「京」「浪花」「播磨」「明石」は日本の有名な地名や近隣の地名を町名に付け、「東」「西」「前」「海岸通」はそれぞれの位置から付けたものである。現在の居留地はビルが建ち並び、ビジネス街と化してしまっただが、旧居留地15番館(国重要文化財)は唯一残る居留地時代の建物である。なお、大丸前にある「神戸外国人居留地の碑」が当時の様子を偲ばせてくれる。

(豆知識) ストリートが今でも残る居留地の区画

日本の町と町の境界は普通、道路をその境にしている。しかし、この居留地内の町の境は例外である。町の大きな筋(道路)を中心にして対面する家々は同じ町名なのである。これは欧米のストリートという感覚がそのまま入ったもので、まさに外国人が住んでいた居留地ゆえのものといえよう。居留地の区画は現在でも残され、今でもストリート(筋)を中心にして町名が同じであるという光景はかわらずに残っているし、一番から一二六番までの区画も現行の地番として健在である。これもここがかつて居留地であったことを証明してくれる名残の一つであろう。



出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

旧外国人居留地

◆旧居留地に残る歴史の足跡

・居留地 1 2 4 番の標石(a)

モーリヤン・ハイマン商会の倉庫があった。
標石の埋め込まれてあるレンガ塀は 1919（大正 8）
年に修築したもの。

(a)



・居留地 1 0 8 番の銘板(b)

モーリヤン・ハイマン商会の倉庫があった。
明治初年に建てられたレンガ造りの建物の当
時の「窓まわり」に銘板をはめこんである

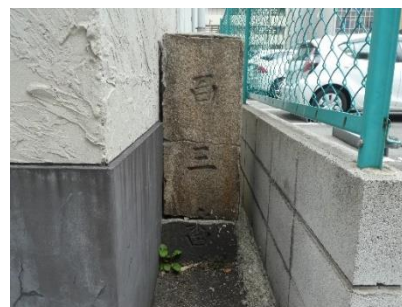
(b)



・居留地 1 0 3 番の標石(c)

ビルとビルの上にひっそりとたつ当時の標
石。イギリスの商社・ジョン・スワイヤ・アンド・サン
ズ・リミテッドの神戸支店があった。

(c)



・外国商館跡の門柱(d)

居留地 6 9 番にあった外国商館の門柱。

(d)



旧外国人居留地

・居留地 6 8 番の標石(e)

居留地 6 8 番に建っていた商館の門柱に使われた古い標石。



(e)

・神戸市立博物館(f)

1935（昭和 10）年に建てられた旧横浜正金銀行神戸支店の建物をもとに新たに建物を増築して、博物館に転用。博物館は市立考古館と市立南蛮美術館を統合する形で 1982（昭和 57）年にオープンした。建物は国の登録文化財になっている。



(f)

・チャータードビル(g)

居留地 9 番に建つ。1938（昭和 13）年築。この地は英・西・奥の領事館があったところ。



(g)

・神港ビル(h)

居留地 8 番に建つ。1939（昭和 14）年築。居留地時代はドイツの商社・シュルツライズ商会があった。



(h)

旧外国人居留地

・旧神戸居留地十五番館 (i)

1989（平成元）年に国の重要文化財に指定。神戸の居留地に残る当時の唯一の建物。コロニアルスタイル。1881（明治14）年頃に建てられたものと思われる。当時はアメリカ領事館として使用された。1990（平成2）年～1993（平成5）年にかけて行われた保存修理工事を経て、文化財を活用したレストランとしてオープンしたが、1995（平成7）年の阪神・淡路大震災で全壊した。震災後、倒壊前の部材を回収し復旧工事が行われ、1999（平成11）年に建設当初の姿を取り戻すことが出来るに至った。また、十五番館と西隣の16番の敷地との間にある煉瓦塀も居留地時代のもので、壁の端の柱の下には15番地と16番地の境界を示す線が引かれてある。十五番館前の「旧居留地下水道公開施設」は、1872（明治5）年頃に敷設された煉瓦造の下水渠で、居留地の設計を手がけたハートによって設計・施工された。



建物所有者：(株)ノザワ (i)

・宮城道雄生誕地の碑(j)

三井住友銀行神戸営業部の東側に、「春の海」で知られる箏曲家・宮城道雄生誕の地の碑がある。この碑のある場所は居留地58番（茶倉）にあたり、彼は1894（明治27）年4月7日にこの地で生まれた。幼少の頃失明するが、その後神戸の二代目中島検校に生田流箏曲を学び、上京後は新日本音楽の名で創作演奏をして活躍する。東京音楽学校教授となり、邦楽界の第一人者とまで言われるようになった。1956（昭和31）年演奏旅行中に列車から転落して死亡。なお、午前9時～午後5時までの30分おきに、代表作「春の海」の演奏がこの碑から流れる。



(j)

旧外国人居留地

- ・旧三菱銀行三宮支店時代の柱頭(k)

1929(昭和4)年に建てられた三菱銀行三宮支店(現・三菱UFJ銀行)の建物の当時の柱頭。なお、神戸支店のある神戸ダイヤモンドビルのエントランスホールの壁に埋め込まれている獅子のブロンズ扉は旧三宮支店正面玄関の扉である。



(k)



- ・居留地の碑 (l)

大丸前にある居留地の碑。



(l)

旧外国人居留地

・商船三井ビル (m)

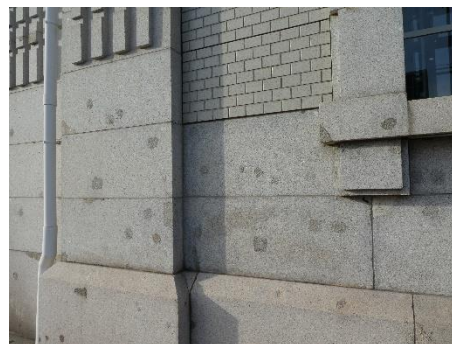
居留地 5 番に建つ。1922 (大正 11) 年築。居留地時代は独・露・スイスの領事館があった。



(m)

・海岸ビル(n)

居留地 3 番に建つ。1918 (大正 7) 年築で河合浩蔵の設計。このビルの西隣 2 番地に香港上海銀行のレンガ造りの建物が建てられていたが、これが第二次大戦中海軍武官府として使用されていたため、ここをグラマンが機銃掃射して、その名残が海岸ビルにも残されている。阪神・淡路大震災での被害が大きかったため、このビルは建て替えられることになったが、機銃掃射の跡が残る外壁部分はそのまま残して、その内側に近代的なビルを建てる (1998<平成 10>年竣工) ことで、かつての海岸ビルの名残を残している。



(n)